

学習内容報告書 フォーマット

学校名	港区立青南小学校
授業者	寺師 純子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「運動と体のづくり」～海の生物～

1-2. 学年

第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科・食育

1-4. 単元の概要

海の生物は、環境に適した体のづくりをしていることを知る。魚を食べるときは体のづくりを考えて食べることでおいしく大切にいただくことができることを理解する。
海で暮らす動物であるクジラやイルカの暮らしや体のづくりについて知る。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

ヒトや動物の体の巧みなづくりを学び、陸とは異なる環境にある海の生物の体のづくりについて興味が高まっている。海の生物の暮らしを学ぶことで、巧みなづくりを実感する。さらに海洋環境を視野に入れた視点を定着させることができる。また、魚離れが言われる中、食材としての魚をおいしくいただく方法を身に付け、魚を取り入れた食文化について考えをもてるようにした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

海の生物の巧みなづくりを理解するとともに、魚を取り入れた食文化の守り手であることを理解する。

1-7. 単元の展開（全2時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / ◎主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 + 給 食	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食卓に上る魚やその匂を知る。 ○ 魚の骨格について理解する。 ○ 魚の食べ方を理解する。 ○ 丸ごと魚を味わう。 	外部講師：水産物市場改善協会 おさかなマイスター
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海の動物のクジラやイルカを知る。 ○ クジラやイルカの暮らしについて専門家の話を聞く。 ○ 暮らしに適した体のづくりについて情報交換をし、海の生物について興味関心を高める。 	外部講師：東京海洋大学：中村玄先生 東京海洋大学：岡本亮介先生 秀明大学：村上瑞季先生

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

海で暮らす動物も暮らしに適した巧みな体のつくりをしている。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / ◎評価の視点 (方法)
<ul style="list-style-type: none">○ 海に暮らす動物について知る。<ul style="list-style-type: none">・ クジラやイルカがいる。・ 時々水面に出て息をしている。・ 魚と同じ骨格なのかな。○ 暮らしに適した「骨格」を中心にした体のつくりについての話を聞く。<ul style="list-style-type: none">・ 古生物学の視点からの話・ 生態学の指定からの話・ 分類学の視点からの話○ 専門家の話を互いに交換し合う。○ 海の動物について身につけた知識や見つけた巧みさから、海の動物について環境保全の視点を含めて考えを記述する。	<ul style="list-style-type: none">○ 海で暮らす動物について各分野の専門家の先生方から、それぞれの視点でお話を伺うことを知らせる。興味をもった分野の先生のお話を聞き、互いに情報交換をすることで、学びを広げる機会とすることを知らせる。○ 各学級を3つのグループに分け、異なる専門家の話を聞くことができるようにする。特別授業後に学級に戻り、専門家に成り代わって情報交換をすることができるようにする。◎ 海の生物の体のつくりに興味をもって知らせたいことを記録している。進んで情報交換を行い、知識を増やし、海の生物を愛護する気持ちをもつようになっている。 (観察・記述)

3. 今回の活動の自己評価

各分野の専門家から同じ視点で話を構成していただいた。教室に戻った児童は、自分が得た知識を専門家に成り代わって披露することで、海の生物への理解を深めていた。このことが知識の定着につながるとともに、海洋環境の保全への意識の高揚につながったと感じている。事前に魚の食べ方教室を実施することで、魚類と哺乳類の違いにかかわる質問をすることが可能となって、学習が深まっていた。

4. 今後の課題

協力機関との連携を継続すること。講師料の確保。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

講師との事前の打ち合わせにより専門分野の視点からの話と、共通にする話題を共通理解しておくこと。